

ものづくりを通して繊維・染色技術の楽しさを伝える取組

事業責任者： 守田 弘道（教育学部・准教授）

代表学生： 松田 美穂子（連合教職開発研究科教職開発専攻・2年）

概要	
本事業は、ものづくりを通して児童生徒、大学生、社会人に「捺染」や「浸染」という繊維・染色技術の楽しさを伝えることを目的とした。2024年度は、2023年度の活動を改善しながら、福井県内小学校第4学年～第6学年の児童18名を対象に、クラブ活動で捺染によるコースターやバッグ、ランチョンマットづくりをした。また、事業責任者指導のもと、代表学生が福井県内高等学校工業科第2学年の生徒29名を対象に、2023年度の授業（科目：「繊維・染色技術」）モデルを改善し、指導を行った。加えて、福井大学を拠点に繊維・染色に関わる学外者1名の協力を得ながら、大学生や社会人18名を対象に、植物染料を利用した絹の浸染を行った。その結果、対象者に繊維・染色技術の楽しさを伝えることができた。	
関連キーワード	ものづくり、繊維・染色技術、捺染・浸染、楽しさ、SDGs4、福井のみらい創り

事業の背景および目的

福井県は、繊維産業が盛んで染色加工の歴史も古いら。また、「次世代を担う繊維産業企業100選」²⁾に12社の福井県の企業が選ばれており、日本の持続可能な繊維産業の発展にも牽引の期待ができる。繊維産業の継承や発展を持続するためにも人材育成が必要となってくるが、福井県の初等・中等教育において、専門的に繊維・染色技術を学ぶことができる学校は、福井県内高等学校工業科の1学科のみである。このような背景の中、事業責任者は、次世代の人材育成のための計画的・継続的な取組が必要であると考えた。ものづくりをしながら繊維・染色技術の楽しさに触れ、興味を促し、幼児教育から高等教育・継続教育で質の高い教育をすることで、福井のみらい創りができる高度専門職業人を育成できると仮説を立てた。

そこで、ものづくりを通して園児、児童生徒、大学生、社会人に繊維・染色技術（捺染）の楽しさを伝えることを目的として2023年度より本事業をはじめた。2024年度は、ものづくりを通して児童生徒、大学生、社会人に「捺染」や「浸染」という繊維・染色技術の楽しさを伝えることを目的として本事業を実施した。

事業の内容および成果

【学校教育内】

事業責任者が、2023年度の学校教育外活動を改善しながら、福井県内小学校第4学年～第6学年の児童18名を対象に、クラブ活動で捺染によるコースターやバッグ、ランチョンマットづくりをした（実施日は、2024年7月8日と9月30日）。その結果、クラブ活動でものづくりを通して繊維・染色技術（捺染）の楽しさを継続して伝えることができた。また、事業責任者の指導のもと、代表学生が福井県内高等学校工業科第2学年の生徒29名を対象に、2023年度の授業（科目「繊維・染色技術」）モデルを改善し、指導を行った（実施日は、2024年12月2日）。その結果、工業科の科目「繊維・染色技術」において、質の高い教育（指導）が継続できた。また、ものづくりを通して繊維・染色技術（捺染）の楽しさを継続して伝えることができた。

【学校教育外】

山村染織工芸の施設見学及び浸染技法体験などを参考に、植物染料と絹を使ったものづくり教材を開発した。また、開発した教材を学校教育外のワークショップ用にプログラム化し、福井大学内で「日本の伝統的な染色技法にふれよう～着る薬として玉ねぎの効能をシルクに閉じ込める～（別紙2）」として、大学生や社会人18名を対象に実施した（実施日は、2024年12月1日）。その結果、繊維・染色に関わる学外者1名の協力を得ながら、事業責任者1名、代表学生1名（合計3名）でプログラム通りに実施できた。対象者は、けがもなく玉ねぎの植物染料によるスカーフづくり（写真1）や、講師の植物染料の効能とシルクの魅力の話を聴くことができた。ワークショップ実施後の感想では、染色や体験時間を楽しむ記述や、植物染料や絹のすばらしさを感じる記述などが何えた。以上のことより、スカーフづくりを通して対象者である大学生や社会人に、繊維・染色技術の楽しさを伝えることが示唆された。



写真1 スカーフづくりの様子

参考文献・添付資料および特記事項等

- 1) 一般社団法人 福井県繊維協会（最終アクセス日 2025年3月28日）：福井県繊維産業 歴史、<http://www.fukui-seni.or.jp/20rekishi/index.html>
- 2) 経済産業省（最終アクセス日 2025年3月28日）：繊維 次世代を担う繊維産業企業100選 事例集、https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/fiber/

事業名称:ものづくりを通して繊維・染色技術の楽しさを伝える取組

事業責任者: 守田 弘道 (教育学部・准教授) 代表学生: 松田 美穂子 (連合教職開発研究科教職開発専攻・2年)

【目的】

関連キーワード:ものづくり, 繊維・染色技術, 捺染・浸染, 楽しさ, SDGs4, 福井のみらい創り

ものづくりを通して児童生徒, 大学生, 社会人に「捺染」や「浸染」という繊維・染色技術の楽しさを伝える

【取組Ⅰ(学校教育内活動)】2023年度の学校教育外活動を改善しながら, 福井県内小学校第4学年～第6学年の児童18名を対象に, クラブ活動で捺染によるコースターやバッグ, ランチョンマットづくり(7月, 9月)



取組Ⅰ: 捺染の体験の様子

【評価】

- 1) クラブ活動でものづくりを通して繊維・染色技術(捺染)の楽しさを継続して伝えることができた

2025年度以降:持続可能な事業展開

児童生徒を対象とした授業等学校教育内活動

※小学校, 中学校, 高等学校工業科に継続して提供

大学生, 社会人を対象にした活動

※学び直しができる事業を展開

【取組Ⅱ(学校教育内活動)】事業責任者の指導のもと, 代表学生が福井県内高等学校工業科第2学年の生徒29名を対象に, 2023年度の授業(科目「繊維・染色技術」)モデルを改善し, 指導(12月)

【評価】

- 1) 工業科の科目「繊維・染色技術」において, 質の高い教育(指導)が継続できた
- 2) ものづくりを通して繊維・染色技術(捺染)の楽しさを継続して伝えることができた

2024年度:繊維・染色企業等連携による学校教育内外活動

【取組Ⅲ(学校教育外活動)】山村染織工芸の施設見学及び浸染技法体験などを参考に, 植物染料と絹を使ったものづくり教材を開発。開発した教材を学校教育外のワークショップ用にプログラム化し, 福井大学内で「日本の伝統的な染色技法にふれよう～着る薬として玉ねぎの効能をシルクに閉じ込める～」として, 大学生や社会人18名を対象に実施(12月)

【評価】

- 1) 繊維・染色に関わる学外者の協力を得ながら, 事業責任者, 代表学生(合計3名)でプログラム通りに実施できた
- 2) 体験の様子や染色やワークショップ実施後の感想(体験時間を楽しむ記述, 植物染料や絹のすばらしさを感じる記述など)より, スカーフづくりを通して対象者である大学生や社会人に, 繊維・染色技術の楽しさを伝えることが示唆できた



取組Ⅲ: 浸染の体験の様子と完成したスカーフ